

沿岸シラスの最適漁場探索支援ツールの開発

[研究課名] 水産研究課（海洋生産技術担当）

[共同研究機関] （独）水産総合研究センター，北海道大学，静岡県，高知県，大分県，宮崎県，（株）ソニック

[研究期間] 平成23年度～25年度

■ 研究の背景・目的

- いわし類の稚魚を漁獲するシラス船曳網漁業は、沿岸域の重要な漁業のひとつですが、漁場探索に時間がかかり、多くの燃油を消費するため、近年の燃油価格高騰が経営を圧迫しています。
- そこで、燃油消費の低減と効率的な漁業のため、漁獲に係る漁期や漁場の特性を把握し、シラスが「いつ」、「どこで」、「どのくらい」獲れるか判断するための指針の作成に取り組みました。
- さらに、共同研究機関の各県において作成した指針を基に、漁場探索の判断材料となる情報を一元的に把握できるWeb上のシステムの開発を目指しました。

■ 研究の成果

- カタクチイワシの漁獲量、水温、卵稚仔の数等の漁海況情報と本県のシラスの漁獲量との関係を明らかにしました(図1)。
- シラスがまとまって漁獲される時期の主漁場の表層水温は、春期が15～19℃台、夏期が23～26℃台、秋期が23～27℃台でした(図2)。
- シラスの漁獲ピーク時における主漁場の表層水温は、春期が16℃台、夏期が26℃台、秋期が26～27℃台でした(図2)。
- Web上で各地域毎の漁模様や海の情報を提供する「沿岸シラス最適漁場探索支援システム」を開発しました(図3)。

■ 期待される効果、今後の展開

- これらの成果を活用すると、シラスの漁場を効率的に探索できるため、漁場探索にかかる時間を短縮し、燃料代を削減することができます。
- 沿岸シラス最適漁場探索支援システムは、広域的な漁海況情報を迅速に提供できるため、まき網漁業をはじめとした他の漁業でも出漁の判断や漁場の探索に活用できます。

沿岸シラスの最適漁場探索支援ツールの開発

シラスが「いつ」、「どこで」、「どのくらい」獲れるか推測可能

研究の背景・目的

- ・シラス船曳網漁業の漁場探索に要する燃油費が、価格高騰に伴い経営を圧迫
- ・シラスが獲れる時期や場所を効率的に探索できる指針を開発
- ・シラスの漁場探索に役立つ広域的な漁海況情報をWeb上で提供

研究成果の内容

- ・漁海況情報と本県のシラスの漁獲量との関係を明らかにした(図1)。
- ・表層水温から、シラスがまとまって漁獲される時期と場所を推測することができた(図2)。
- ・漁場探索に必要な漁海況情報を提供する「沿岸シラス最適漁場探索支援システム」をWeb上で公開した(図3)。

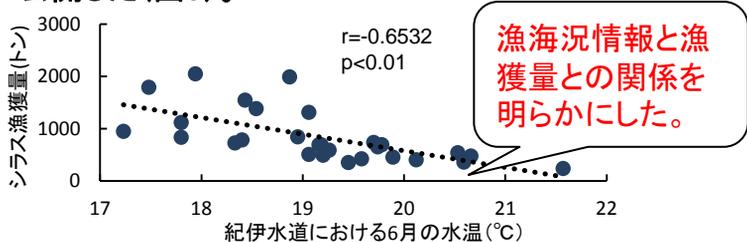


図1 漁海況情報と漁獲量との関係

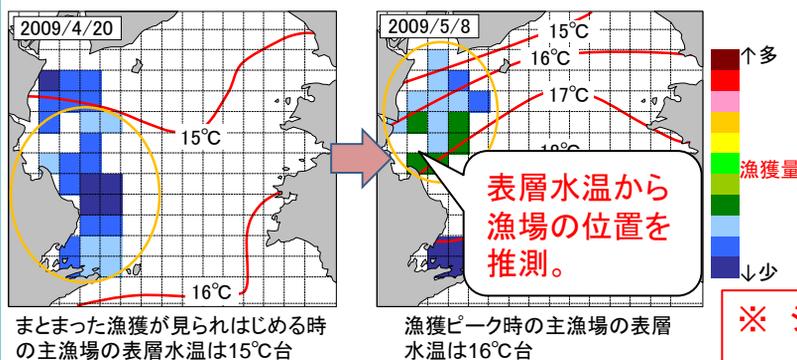


図2 表層水温の分布と漁場との関係

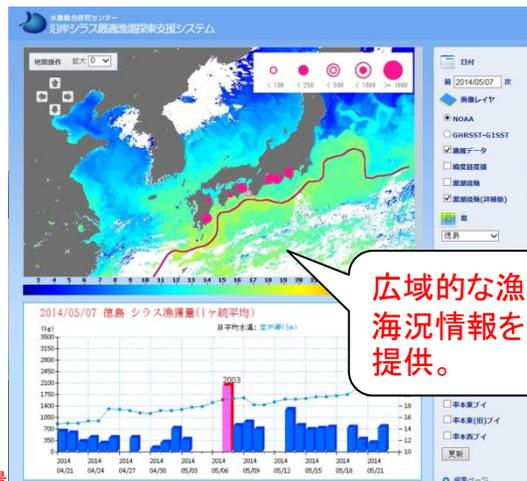


図3 沿岸シラス最適漁場探索支援システムのメイン画面

※ シラスが「いつ」、「どこで」、「どのくらい」獲れるか推測できる。

導入メリット

- ・シラスがまとまって漁獲される時期や場所が推測でき、出漁の判断や漁場の探索に活用できる。
- ・広域的な漁海況情報を迅速に提供できるため、シラス船曳網漁業だけでなく、まき網等の他の漁業でも、出漁の判断や漁場の探索に役立つ。



生産者の皆様へ

- ・「沿岸シラス最適漁場探索支援システム」は、(独)水産総合研究センターのホームページから利用することができます。各地の漁獲情報、海況の予測など効率的な漁業に必要な情報が満載ですので、まずは「沿岸シラス支援システム」で検索を！
- ・出漁の判断や漁場の探索に活用でき、燃油費の削減が期待できます。

問合せ先 水産研究課海洋生産技術担当
電話 0884-77-1251